

[潤生園ニュースレター]

vol. 5

2022

うるる

特集

関係し合う暮らしのために

ご高齢になった方の住まいをチームで支える
3人の若きリーダーを訪ねました



対談

AIが支援する介護の未来

三枝亮 (神奈川工科大学 創造工学部 准教授) × 時田佳代子 (潤生園理事長)

はじめに

緑深い山を見上げながら坂道を上ったところにある、
特別養護老人ホーム潤生園。

スタッフはきびきびと、ご利用者はそれぞれの速度で歩く廊下には
穏やかな空気が流れています。

壁には時田純会長が掲げた運営理念が、行き交う人を見守っています。

「人は人として存在するだけで尊い。

真の福祉は、人の尊さを知り、

個人の人格をここから敬愛するところからはじまる。」

1978年に開設され、今年で44年目を数える高齢の方の住まい。
本号のうるるでは、ここでの暮らしを支えるケアについて、
さまざまな方にお話を伺いました。

うるる編集部

関係し合う 暮らしの ために

潤生園と人 加藤祐貴さん・杉本敦軌さん・小関基剛さん



左から杉本敦軌係長、加藤祐貴課長、小関基剛係長

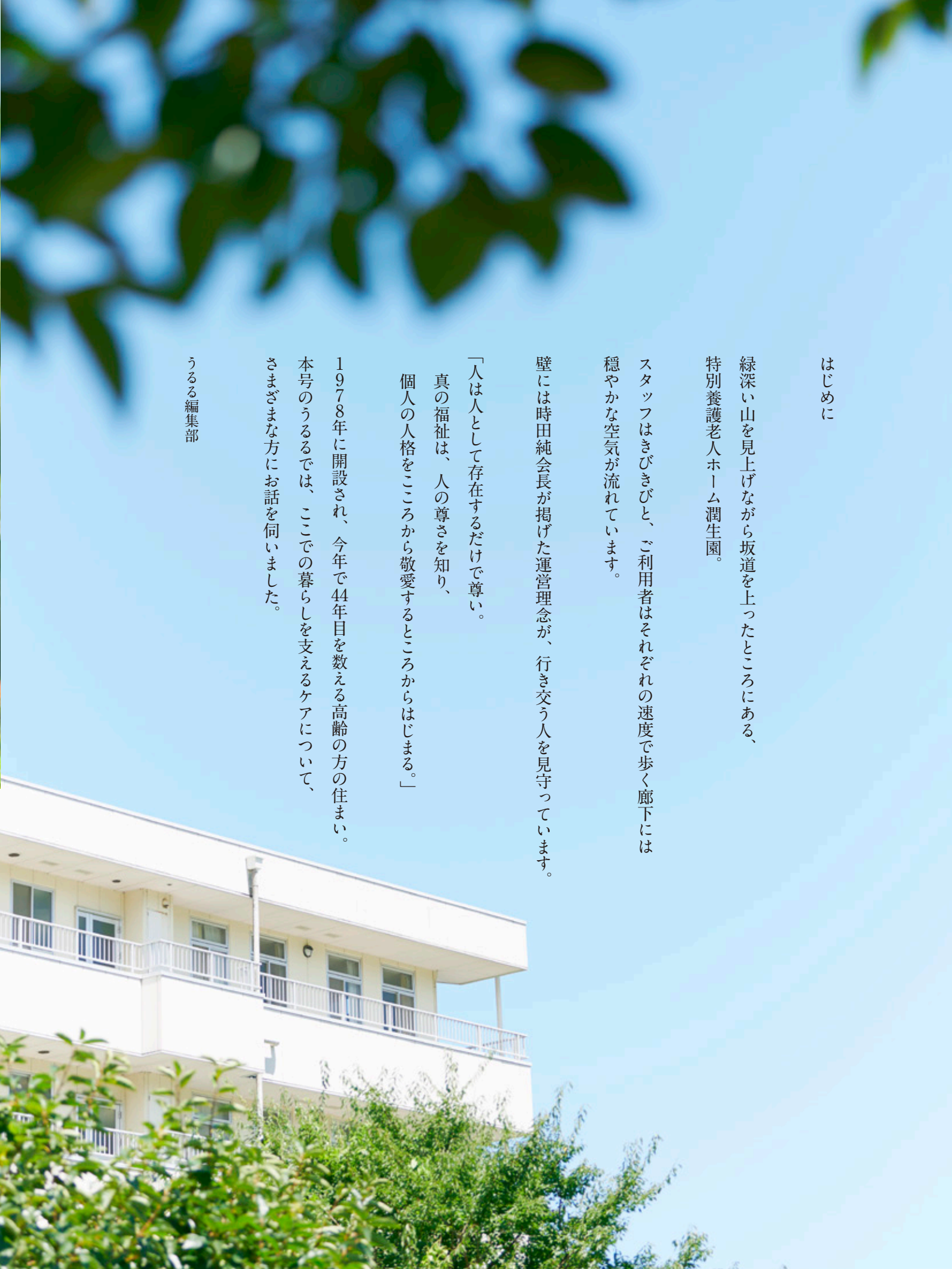
高齢者の方向けの住まい「特別養護老人ホーム潤生園」。山々の深い緑が窓いっぱいに広がる食堂では、くつろぐご利用者の間を縫うように、エプロン姿のスタッフが行き来している。同じフロアにある個室を覗かせていただくと、ベッドで休むご利用者の様子を見守る介護職員と看護職員の姿があった。

ここでは、多職種から構成されるおよそ70名のスタッフが、100名のご利用者の暮らしを支えている。学校を卒業してまもない若手、入職40年を超えるベテラン、外国人職員が多く在籍するチームもある。多様性を受け入れながらチームとしての信頼関係を築くためにはどのようなことを心がけているのか。3人の若きリーダー、特養1課・加藤祐貴課長、2課・杉本敦軌係長、3課・小関基剛係長にお話を伺った。

みんなで考える

ご利用者は個性も心身の状態も千差万別。いま、目の前にいる方に、どんなケアが相応しいのか、スタッフの前には常に迷いの壁が立ちはだかる。そんな介護の現場で大切にしていることは何か、という問いに、「チームケア」みんなで考えることです、とリーダーたちの声が揃った。

毎日のミーティングでは、現場のできごとや困りごとが共有され、解決方法を求めた意見交換が始まる。心が落ち着かないご利用者がいらっしやれば、安心していただけるための情報をチームで話し合う。



介護職員はもちろん、作業療法士や看護職員なども加わり、必要なら入居時の書類やご家族からの情報も参照する。「それぞれ歩んでいらした道が違うし、昨日と今日の状態も違う。その人にとって今日、何がいちばん良いのかを考えるには、多くの目が必要なんです」（加藤課長）

ミーティングの時間だけではなく、ほんの短い休み時間にもリーダーたちはスタッフと言葉を交わし、日常の様子を伝え合う。「ご利用者のより良い生活を支えるためにはスタッフ間の関係も良くないと、連携を取りづらいですから」（小関係長）

「僕らの役割は、スタッフが気持ちよく働ける環境づくりと、目指すべきところを示し続けて行くこと。それが潤生園のケアを強くすることにつながると思っています」（加藤課長）

潤生園では子どもが誕生すれば男性でもしっかりと育休を取れるという。そんな職場環境も、日々の密なコミュニケーションから生まれる。働き続けるこ



ダーが要となり、一人ひとりの声が動かす現場がこうしてつくられていく。

それぞれの暮らしを支えるケア

特養での暮らしは集団生活的ではあるが、できる限り「個別性」を確保したい、と3人は口を揃える。たとえば、食事。管理栄養士が体調やお好みに合わせて個別に調理した献立でも、完食できないならば、その方のいまに寄り添う。起床時間もそうだ。ご自宅なら起きる時間は自分で決められるでしょう、と小関係長。「何かしていただく時には、それってこち

潤生園のチームケア

特集で登場する専門職をご紹介します！

介護職員：食事や入浴の介助（身体介護）や身の回りのお世話（生活援助）などを通してご利用者の毎日に寄り添います。

作業療法士：生活動作のリハビリや認知症に対する支援を担い、機能訓練や体操、イベントなどを通して行動を広げる方法を考えます。

管理栄養士：厨房（調理）と、給食管理（献立作成と食材発注）と、栄養ケアマネジメント（嚥む力・飲み込む力、食事摂取量と体重の変化などから栄養ケア計画を作成）を担当します。

看護職員：日々の体調観察や服薬の管理などご利用者の体調管理と、医師と密接に連携したご利用者のケアを行ないます。



とに負担が少なければ、余裕をもって楽しく仕事ができ、ひいてはご利用者に対してのより良いケアにもつながるに違いない。

「潤生園の良さをもっと地域の人に知ってもらいたいし、一緒に働く仲間も増やしていきたいですね」（杉本係長）潤生園の人材育成にも関わっているという3人の笑顔は、優しくて力強い。

一人ひとりの声が現場を動かす

2階ではご利用者の歩行訓練に作業療法士の徳永さんが付き添っていた。室内で過ごすことが多い施



観察し、考えてケアすることが求められる。

「こうするのがいいんじゃない？と自分たちからはなるべく言わないようにしています。誰かが決めたことをするのはなく自分で考えて動く。それがプロの介護職だと思うので」（杉本係長）

心身の状態に合わせた個別のケアを、という潤生園共通の想い。そこから自分たちは決してブレてはい

ら都合じゃないのか？と考えます。変えられる予定ならご希望を叶えるほうを選びたい」

そのためには、スタッフそれぞれが、日々の暮らしの中で

設の暮らし。徳永さんは、「梅仕事」に覚えがある方

も多い小田原のご高齢者に季節を感じられる行事をと、地域で採れた梅のシロップづくりを提案した。できあがったジュースはみんなでわいわいと楽しんだと伺った。「ご利用者に作業のコツを教わったり、お体の状態で両手が使えない方には片手でできる工程を受け持っていたいたり。達成感を味わっていただけた行事だったようです」（加藤課長）。

どんな方にもできるだけ自立した暮らしや達成感を味わっていたいただきたい。そんな願いからの試みが発案されれば、多職種が縦横に連携して実現する。スタッフからの発信を敏感に捉えて反応するリー

けない、リーダーがブレなければ現場は迷走しないのだから、という加藤課長の声に二人は力強く頷いた。



加藤祐貴さん （介護福祉士）

老健施設での10年の経験のあと、ケアの哲学・充実した人材育成の環境に惹かれ潤生園へ。現・特養介護第1～3課の統括課長。

杉本敦軌さん （介護福祉士）

祖母の通った潤生園で研修を受けて入職。特養勤務を経て南足柄にあるユニット型特養の立ち上げに関わった。その後現職へ。現・特養第2課係長。

小関基剛さん （介護福祉士）

潤生園で働く母親の背を見ながら育ち、大学卒業後、自身も介護の道を選び潤生園へ。特養勤務、ショートステイ勤務を経て現・特養介護第3課係長。



潤生園みんなの家南足柄(1丁目)

青柳 類
介護職員
趣味:映画鑑賞

神長祥子
介護職員
趣味:娘とライブに行くこと

太田 忍
介護職員
趣味:金魚の飼育

潤生園みんなの家南足柄(2丁目)

田中 慎
介護職員
趣味:音楽鑑賞・ラーメン屋巡り

潤生園みんなの家南足柄(3丁目)

永田寿紀
介護職員
趣味:スポーツ観戦・BBQ

潤生園みんなの家南足柄

木下華子
ケアマネジャー・相談員
趣味:草むしり

細谷由美
看護師
趣味:スキージャンプ鑑賞・
Instagramのストーリー投稿・
音楽鑑賞(主にHipHop)

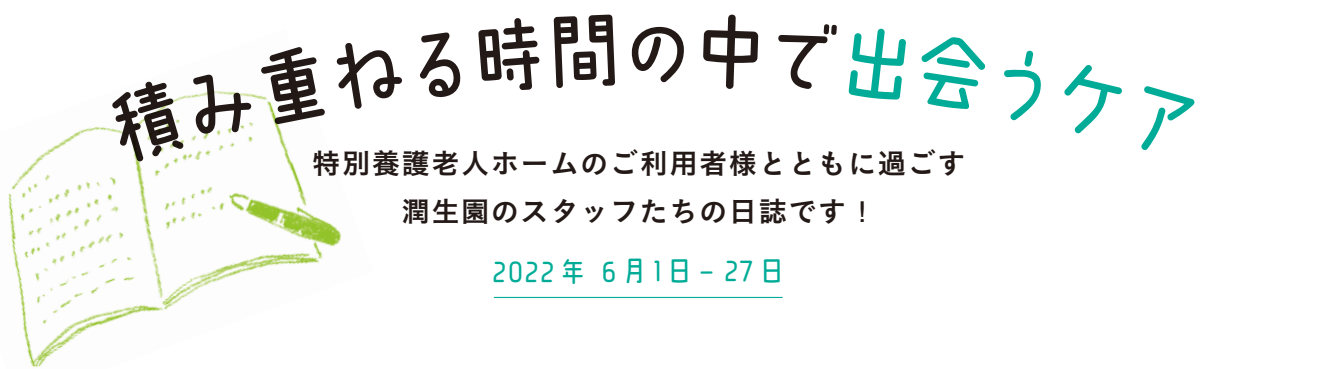
特別養護老人ホーム潤生園特養1課

ガルブザ・ハルカ・バハドゥル
介護職員
趣味:料理・音楽(BTSのファン)

府川治美
介護職員
趣味:子どものバスケ観戦、パン・お菓子づくり

潤生園高齢者総合サービスセンター / 特養4課

古賀真智
介護職員
趣味:寝ること



6月1日(水)

朝の引継ぎを終え、ご利用者様の居室へ伺い、ご挨拶をしてカーテンをあける。U様は、ご挨拶をするといつもは視線だけを向けてくださるが、今日は「おはようございます」と小さな声で返してくださいました。朝から幸せをいただいたような気持ちに。〔青柳〕

6月2日(木)

ーさんから爪を切ってほしいと頼まれた。しかし自分が深爪のため、人の爪も同じように切ってしまう。そのことをーさんに伝え、他の人に頼んでくると伝えると「私はあんたに切って欲しいんだよ」と少し照れたように言う。私が、爪どころか肉を切ってしまうかもと言うと「いいわよ、あんたなら」とーさんも諦めない。やむを得ず、震える手で爪を切り終えると「肉切らなかつたじゃない」と言ってきた。冗談交じりで私も応答する。そのやりとりを見ていた職員から、「親子の会話みたいだったよ」などと言われる。〔田中〕

6月3日(金)

特養のテラスで育てている夏野菜たちが、日中の寒暖差にも負けずにすくすくと育っている。なかでもトマトとイチゴ、去年、失敗してしまったトウモロコシの成長は著しい。今回はサツマイモにも挑戦している。夏が来るのが、待ち遠しい。〔細谷〕

6月6日(月)

リピンクにおられるご利用者様に、外気浴

6月11日(土)

U様、歌を聴くのが大好きとのことで美空ひばりや八代亜紀の動画を流すと手を叩いて喜んで聴いていられる。疲れたのか手が止まっていたので手持ち鈴を渡すと、両手でシャンシャンと鳴らし楽しそう。〔永田〕

6月13日(月)

入居者の身体障がい者手帳の申請支援で必要となる診断書を作成する。診断書の作成には病院受診が必要となる。ご家族だけでお連れするのは難しいので、看護師と付き添った。「こういうことが不慣れで」とご家族心配しなくて大丈夫、お手伝いできます。障がい者医療証が交付されれば少しは負担が減りますね。施設に戻ってお写真を撮る。必要な書類はこれで揃った。〔木下〕

6月15日(水)

入居されてからまだ日が浅いK様。最初は充実した毎日でもその内に食事の度にベッドから離れることに嫌気が差してしまふ。話を聞くと「昔ながらのがよいの」と。昔ながらのとは…? 「もっと形のある物、食べたいですか?」と聞くと大きく頷く。他職種に相談し、荒刻みを用意。K様は前のめりに「これこれ!」と、ゆっくりだが全量召し上がられた。現場での気付きから、他職種との連携でご利用者様が満足する。チームワークで働く楽しさを改めて実感。〔府川〕

の声掛けをするとK様は「風があるからやだよ」と。そこでガラス越しに外を見ていただく、テラスで育つ野菜の葉を見て「あれはトマトだね」と感心を向けられたので、近づいて他の野菜も見てみましょうとガラス戸を開けると「そうだね、あれはサツマイモかな。これはイチゴ、そっちはモロコシ」と葉をさわったりして、楽しそうに過ごしていただいた。〔神長〕

6月8日(水)

穏やかなお天気の日。昨年の夏頃から言葉数が少なくなり、にこやかな表情だけで応えてくださるM様とお散歩に出た。外に出てしばらくすると少し強めの風が吹き、M様が大きな「くしゃみ」をされた。「大丈夫?」と尋ねるとM様は笑顔で笑う。私がティッシュでM様の鼻水を拭いていると、すぐ小さな声で「ありがとう」。天気・突風・くしゃみ、3つの事柄が偶然重なって聞けたMさんの声。今日のささやかな出来事は、私の大切な宝物。〔田中〕

6月9日(木)

入所が決まったA様のご家族とご契約。ご本人とは現在入居している施設でお会いし、ADL(日常生活動作)やご病気のことは確認できたが、お家にいた頃はどんなご様子だったのかな? A様の背景を伺い、これからの生活に活かしたい。ご家族から、A様の若い頃のことやご病気が分かった時のこと、ご家族の思い等を伺い、ケアプランを作成した。

6月16日(木)

毎日、日課で玄関ホールまで新聞を取りに行かれるJ様。最初は、往復2時間程度かかっていましたが、ユニットに戻ったらもらえる、あめちゃんのためにだんだん速くなり、今では30分も短縮して往復できるよう。これからさらにも短縮を目指して、ファイト! 〔細谷〕

6月18日(土)

朝、あまり眠れなかったご様子のS様。ご挨拶をしてもいつもの元気がない。朝食を終え、車椅子でトイレに向かわれる。手洗いを終えた後、S様は少し離れたゴミ箱に丸めたペーパーを投げた。すると上手いことゴミ箱に吸い込まれていた。私が「ナイスストライク! バッターアウト!」と放つと私の手を取り大喜びのS様。「お疲れ様です。肩、冷やしましょうか?」と続けると「おおそうだな!」と足を組まれる。野球好きのS様は眠気が吹き飛んだご様子で、一日が晴れ晴れとスタートした。〔府川〕

6月20日(月)

奥様と二人暮らしのA様。奥様が緊急入院されたためショートステイをご利用になられる。出勤してすぐ「お早うございます」とA様に声がけすると、「なんだ」と大きな声を出されてしまいました。しばらくご様子を見守り、A様がソファアに座られているときに声をかけると、少し表情が穏やかになり、少しずつ奥様がいなくて、孤独感で一杯と辛



ケア内容は介護職員を中心に看護師や管理栄養士と検討。A様とご家族に安心を提供できますように。〔木下〕

6月10日(金)

食堂で食事介助を担当しながらふとT様を見ると、お茶碗にお茶を入れ、おかずをお箸で混ぜていらっしやる。その光景は、家族のためにご飯をつくる母の顔であった。気分の浮き沈みで食事量に差が出てしまうT様に、「一生懸命、つくっていますね。美味しそうですね」と声掛けをした。真剣な顔から笑みがこぼれ、「そうなのよ、大変なのよね」と答えて下さる。「毎日、つくるって本当に大変ですよ」と声掛けするとまた微笑まれる。T様はその後、全量召し上がられた。〔府川〕

6月22日(水)

A様より「情けないな、メンツがたたないよ」と奥様に会う時の不安を話してくださいました。「早く会えるといいですね」と伝えると、「ありがたい。この間は怒っちゃって悪かったね」と仰られた。最初は大変な方だなあと思いましたが、関わりを持ったことで、A様の不安や奥様への思いを知ることができた。〔古賀〕

6月24日(金)

H様の食事介助中に隣のF様が話しかけてくれました。「あなたがいるだけで安心する。あなたの介助のやり方はとても優しいね」と言われました。「優しさは無料です」と冗談を言ったら笑ってくれましたが、私はその言葉がすごく励みになります。そういう言葉があったからこそ、これからもご利用者様や職員さんとの関りの中で学んでいきたいと思っています。〔バハドゥル〕

6月27日(月)

お昼すぎ、洗濯たたみをO様をお願いするとエプロンを首に巻いて手伝ってください。すると、それを見ていたY様がO様の肩を軽く叩き「おばあちゃん違うよ、こうやるの」と一つひとつの動作をO様のペースに合わせて教えてくださいました。ご入居様同士士の優しさに立ち会い、心が和む。〔太田〕

潤生園からケアを考える

三枝亮

神奈川工科大学准教授

時田佳代子

潤生園理事長

AIが支援する

介護の未来【前編】

今号から2回にわたり、人間と機械の共生や医療福祉分野でのロボット・AI支援を研究している神奈川工科大学准教授の三枝亮さんと共に、人間がロボットやAIと共存する介護の未来について考えます。



学生のための多目的広場として2020年12月15日に竣工したKAIT広場にて。左より三枝亮先生、時田佳代子 理事長

AIによる食の見守り

時田 三枝先生をご紹介くださったのは、私共と長きにわたって「介護と食」について研究を一緒にいただいている神奈川工科大学管理栄養学科の饗^{あき}場直美教授でした。初めて三枝先生のお話をうかがったときは、ロボットやAI（人工知能）が介護の現場、特に食事の場面でのように関与することができると、まったく想像できませんでした。先生はどのようなところから、食に関する介護支援に興味をお持ちになったのでしょうか。

三枝 「食」は人間らしさが最も際立つ特徴の一つです。人間が健やかに楽しく生きていくために、食事が非常に重要だという点は、みなさん相違ない意見かと思っています。しかし、年齢と共に食が細くなったり介助が必要になるなど、介護の現場では大きな課題にもなります。そういった課題にロボットやAIが役だつ部分があるのではないかという研究を始めました。

最初に想定したロボットの役割の一つは「見守り」です。高齢になると、特定の食べものに注視することでまわりの食べものに気づかなくなったり、眠気が生

じて食事が中断してしまう方がいます。また、食べものが喉に詰まると、命に関わる危険もあります。食事は生活の中心にあり介助する頻度が高いうえに危険度も非常に高く、職員の方々が苦勞される場面なわけです。ですので、まずはそのような場面でのロボットの「見守り」からスタートしようと考えました。

時田 食事の介助では、安全に食事が食べられるように援助するだけでなく、おいしく召し上がっていただけているかどうかにも気を配る必要があります。原則はあるものの極めて個性が高い行為でもあり、現場での経験から身に

付けていかなければなりません。最も重要かつ最も難しいスキルの一つです。さらには一人の介護職員が一度の食事で、6〜7人の人に目をくばらなければいけないといった状況も生じます。そんなときに、介助している人以外の高齢者が安全に召し上がっているかどうかを見守ってくれる助けがあれば、本当に安心だなと感じます。ロボットによる「見守り」、どんな内容が想定されているのでしょうか。

食べもの自体が語りかける

三枝 具体的に考えているアプローチは

三つあります。一つは、お皿に食べものが残っていることを音声で知らせ、食事を取ることで自体を支援するしくみです。立体音響技術を研究している高尾秀伸先生との共同研究から、テーブルの上にある食べものがどのあたりにあるのか、食べもの自体が語りかけて教える音声アプローチが可能になってきているのです。

時田 先ほど研究室のみなさんにご案内いただき見学させていただきましたが、食べものの方から食べる人にアプローチしてくるとはまったく想像できなかった世界で、とても面白いと思いました。体



食器の位置を知らせる立体音響システムの体験（高尾秀伸研究室と共同）。ヘッドフォンからの音声を通して食べ物の位置を伝え、自力で食事する高齢者を支援する。写真上の被験者は潤生園管理栄養士の尾上千鶴主任。

BOOK & MOVIE



絵本『このあとどうしちゃう』

お爺ちゃんは天国に行くのが楽しみだったのかな？それとも？

死んでしまったらどうなるんだろう…。誰も一度は考えたことがあるテーマではないでしょうか。この絵本で描かれる死後の世界は、クスッと笑えて楽しそう。でも一方で死と向き合う孤独についても考えさせられます。僕の祖母は癌で亡くなりました。癌を宣告されたとき、家族の前では気丈に振る舞っていた祖母が抱えていた孤独はどれほどだったんだろう。この絵本が描くような天国で楽しく過ごしてくれていたなら嬉しいな。

著者：ヨシタケシンスケ 出版社：プロンズ新社 発行日：2016年4月

『シェフ ミツ星フードトラック始めました』

つまずいたってやり直せる、やりたいことがあればやっちゃえば？

美味しそうな料理とラテンミュージックが印象的なこの映画、ひと言で最高！そしてとてもお腹が空く映画です。この映画の制作・脚本・主演も務めたジョン・ファブロー監督は、前作の映画で批評家から厳しい批判にさらされ、「本当に自分が作りたい映画を作ろう」と撮影したそうです。仕事が上手くいかない、やりたいことと現実のギャップに悩む、そんなときにオススメな映画です。是非、キューバサンドを食べながら。

監督：ジョン・ファブロー 制作国：アメリカ 製作：2014年

推薦者：安倍有輝

小田原福祉会で人材育成と広報に携わるようになってもうすぐ5年。組織風土をより良くすることを目的とした「みつばちの会」でも活動中。

好きなもの：書店、劇団四季、インテルミラノ、いいちこ 嫌いなもの：きゅうり、トマト、曖昧な指示

潤生園の台所

（さっぱり鮭の香り寿司）



【材料】4人分量

御飯 2合

酢 66.6g

砂糖 21.6g

伯方の塩 11.6g

みりん 13.3g

味の素 少々

鮭 3切

大葉 4枚

生姜 20g

みょうが 2つ

いりごま 少々

- 1 米はとぎ、水をしっかり切って乾かしておく
- 2 米が乾いたら、水と酒を炊飯器に入れ、すぐに炊く
- 3 鮭は、しっかりと加熱し、大きくほぐしておく
- 4 大葉は半分に切り千切り、みょうがと生姜は針千切りにしてよく洗い、水気をしっかり切っておく
- 5 白ごまは、軽く炒っておく
- 6 炊きあがったら、すぐに水分をふき取った飯台に入れ、合わせ酢を回し入れ、切るように素早く混ぜる。その際に、うちわ又は扇風機であおぐ
- 7 粗熱が取れたら、白ごまと大葉 1/2量・生姜を加えて混ぜる
- 8 ご飯をよそい、鮭をトッピングし、最後に残りの大葉を散らして完成

好みでシラスを入れると更に美味しく召し上がれます。



徳納愛菜

穴部特養の栄養ケアと厨房業務を主に行なっています。今年で8年目になりました。車で何処かに出かけたり、美味しいものを食べるのが好きです。

NEWS

令和4年度新入職員研修

4月に入社した5名の新入職員が無事に3ヶ月半の入社時研修を終了しました。全員が介護・福祉以外の学部出身ですが、入社時研修に初任者研修のカリキュラムが組み込まれているため、研修修了と同時に資格も取得しています。

研修全体では単に介護の知識や技術を学ぶだけでなく、利用者体験を通して当事者の理解に努めたり、研修中にお世話になった方々へ感謝を伝えるイベントを企画したりと、様々な経験をしました。これからは各現場と研修部門と二人三脚での人材育成が続きます。配属された現場では、潤生園のケアに通底する「人は人として存在するだけで尊い」という理念の実践を感じ取ってくれているようです。これからの時代が求める介護職員の理想に向かって、若い力の成長に期待しています。



食べ物の形や大きさを認識して口元に運ぶ開発段階のロボット。両腕 14 関節の駆動制御によりフォークやスプーンを使って食べ物を運ぶ。



深度カメラや温度カメラを用いて食事中的数据を集め、食物の位置と内容を高齢者に知らせる「食事ナビゲーション」システム。

必要でない方を耳で見守ることが出来ます。また高齢者の方も、飲み下した音が自分に聞こえれば、食べたり飲み込んだりするリズムを自分自身が知覚して、自分のリズムで飲み込めるようになる可能性もあります。

時田佳代子

（ときた・かよこ）

潤生園理事長

神奈川県小田原市生まれ。地元小田原でイタリアンレストランの開業・経営を経て、平成14年、社会福祉法人小田原福祉会に入職。平成30年より社会福祉法人小田原福祉会理事長。誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりに従事する。認知症ケア事業協同組合理事長、全国地域包括ケアシステム連絡会理事。

三枝亮

（さえぐさ・りょう）

神奈川工科大学創造工学部 准教授／工学博士

早稲田大学理工学部助手、Istituto Italiano di Tecnologia, Dept. of RBCS シニア博士研究員、豊橋技術科学大学人間・ロボット共生リサーチセンター特任准教授を経て現職へ。機械・システム・ロボットなどの人工物が人や環境に働きかけながら発達し、応対する人の心や力も育まれるような、人と機械の共生的な行動・発達の方法論を探る。

三枝 二つ目は、食事の消化を助けたり、誤飲誤嚥を避けるための口腔体操

口腔体操の支援

の麻痺によって視空間が限定されている高齢者には、右側にある食べものは食べられるけれど、左側にある食べものは全部残ってしまうということが起きます。また、食事中にウトウトしてしまう傾向がある方にも「食べることを認識してもらえ、そんなことが可能になるのではと、想像できますね。」

の支援です。介護の現場では、映像などをしながら口の準備体操をされたりしますよね。そこで、食前準備として、ロボットを使った楽しいアプローチができないかと考えました。その結果できたのが、口を単純化したアバター（分身）のようなものを用意して、自分の口が動くとき鏡のようにアバターの口が動くという仕掛けです。同じように動くものが目の前にあると、自分のパートナーのように感じますし、アバターが大きく口を開けると自分も真似して大きく口を開けるようになり、楽しくト

レーニングできるのではないかと考えています。

嚥下の見守り

はきちんと覚醒して、食べることを意識してもらい必要もある。「食べる」という行為を改めて分解してみると、さまざまな動作に気を配りながら安全に美味しく、という現場での食介護の営みが見えてきます。

「次号に続きます」



潤生園ニューズレター「うるる」vol.5

発行日 令和4年8月
デザイン TAICHI ABE DESIGN INC.
撮影 橋本裕貴、牛山恵子(P8～10)
イラスト 落合恵
編集 牛山恵子(合同会社スタジオバンダ)
大谷薫子
執筆 牛山恵子(合同会社スタジオバンダ)
酒井直子
発行者 社会福祉法人
小田原福祉会 うるる編集部
神奈川県小田原市穴部377
<https://junseien.jp>